

第2回貝塚市環境保全審議会 議事要旨

【開催概要】

日時：令和5年11月21日（火）15：00～16：00

場所：貝塚市役所 3F 公房会議室 A

出席者：委員9名

議事：

- (1) 貝塚市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の進行状況について
- (2) 貝塚市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）素案概要について

【議事要旨】

◎議事（1）：貝塚市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の進行状況について

- ・ 市民向けワークショップ内で出てきた意見については、どのように計画素案に反映されているのか？（議長）
⇒地球温暖化によって生じる気象災害への懸念や現在、市が地球温暖化防止に向けて、どのような取組を行っているのか分からないため、市民としてどのような取組を行うべきか判断できない状況にあるという意見があった。情報発信やイベントの開催、省エネ行動の実施、ごみの減量化といった市民目線で取り組みやすい事項を示すことで意見の反映を行っている。（事務局）

◎議事（2）：貝塚市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）素案概要について

- ・ 1997年度に京都議定書が採択され、脱炭素に向けた国際的な取組の最初の目標年度が2010年度とされた。2015年度にはパリ協定が採択され、2030年度までに2013年度比で50%の削減、2050年度までにカーボンニュートラルを目指すことが示されたことから、計画期間内の2030年度は地球温暖化対策の折り返し地点といえる。2030年に向けた準備という意味合いでは重要な計画といえる。（議長）
- ・ 計画素案の中には他自治体の様々な取組事例が示されている。計画書内に取組を示すのであれば、市としても必ず実行する必要があると考える。（A委員）
⇒事例で示している取組については、今後、市として積極的に、加速的に進めていく考えはあるのか？（議長）
⇒事例についてどこまで実施できるのかは分からないところがあるが、マイボトルの事例については、大阪府が掲げるマイボトルの活用目標を目指して進めていきたいと考える。（事務局）
- ・ ゴミについては岸和田市で処理されているため、ゴミの減量化に係る取組の成果が見えづらくなる。市民へのフィードバックができるような仕組み作りが重要である。（議長）
- ・ 木質化の取組状況や森林環境税の用途について意見を伺いたい。（B委員）
⇒木質化や森林保全は市民向けワークショップ内で出た意見を反映したところが

ある。森林環境税の用途についてはこの場で回答できないため、今後ご提示したいと考える。(事務局)

- ・ 温室効果ガス排出量の廃棄物部門は、一般廃棄物のみ明記されているが、排出量の算定対象となるし尿処理等に係る排出量も含まれているのか？(C委員)
⇒情報収集は完了しているが、結果に反映できていない状況にある。今後計算結果を反映する。(事務局)
- ・ 資料で示している促進区域の考え方が分からない。(C委員)
⇒促進区域について説明(事務局)
⇒促進区域を実際に設定するには、庁内での協議も必要となるため、来年度以降になる。(事務局)
⇒今後は生物多様性への配慮の徹底が考えられるため、災害リスクの他、生物多様性に係るレイヤーも重ねて革新性を上げられると良い。(議長)
- ・ 地元事業者が実際に行っている取組を事例として示すと良い(D委員)
⇒地元企業を支援するためにも情報発信は重要である。(議長)
⇒市全体で発信することが重要である。(E委員)
- ・ ゼロカーボンという記載があるが、森林吸収量も考慮してカーボンニュートラルという考えではないか？(E委員)
⇒カーボンニュートラルに記載に修正する。(事務局)
- ・ 地球温暖化の影響内で示す写真の中には、市民の共感が得られるように貝塚市内で生じた災害の写真も入れること。計画期間部分にある誤表記は修正すること。(E委員)
⇒修正する。(事務局)
- ・ 貝塚市は西側から埋立地、市街地、農地、森林地域と空間的な特徴があり、ポテンシャルも高いと考える。そういった部分も考慮した記載を入れると良い。(E委員)
⇒地域の特徴を示すことは重要である。アンケート結果でも公共交通機関への期待は強く、地域の脚を育むという観点からも今後の公共インフラについて考えを伺いたい。他自治体ではポイントの活用や地域の資源の活用といった工夫を行っている。(議長)
⇒市では公共交通の見直しを行っているところである。自由度のある移動について検討を進めているところであるため、次回示したいと考える。(事務局)
⇒本計画は多様な分野との連携が必要であり、実行計画の策定側が主導していく心持で進めていただきたい(議長)

以上